

竹原市収受
竹第号
01.6.29
英年印
月 日
分書印
印年半

資料様式第3号

議長	副議長	局長	局長補佐	係長	局員
					

令和元年8月 29 日

議員(視察・調査・研修)結果報告書

議員氏名 道法知江



視察・調査場 所	地方議会総合研究所、東京セミナー アットビジネスセンター池袋駅前
期 日	令和1年7月29日
経 費	52,600円
参加者氏名	道法知江
視察・調査目 的	「対話と議論」の議会改革 議員の報酬と定数
内 容 (視察先の 現状、竹原 市との比較 等)	講師 龍谷大学 土山希美枝 准教授 ○議会に「対話と議論」はあるか 「議会は話し合うところじゃないのか？」 から始まった。 政策議会か追認か9割は行政からの提案。議案は間違っていないか。 職員は思考=議員は議論なので、議員間討議で可視化と共有。 手法はホワイトボードで書き込むと皆が共有できるし、議事録も簡素化できる。 栗山町から始まった議会基本条例。約半数議会が作成。40%の議会で、 議員間の自由討議、議案としてどうか議論する。 自由な議論は意思決定の遠いところ、検討型で可視化する。 ○議員報酬を考える視角を整理、歳費としての報酬の設計 会津若松市議会が規定した「議員活動の範囲」がある。 自治体(政策・制度)のよき制御にどれだけ貢献しているか、議会の価値評価に直結するため、個でなく、議会として取り組む
効果・成果等	市民との対話の機会を構築するために、議会だより編集委員会で広聴に向けて実績を築いているが、その他の議員に広げて、広報・広聴の場面を増やすにはどうするか、議論が必要に思う。現在議運と議会だより編集委員なので、議会をフォームと捉え、市民により理解を経られるよう我々議会の運営のあり方、を検討する。そのためには現状を可視化し問題点を共有しながら進めていく必要があると思いました。

※ 実施後1ヶ月以内に報告する。

資料様式第4号

議会活性化と議員定数・ 議員報酬を考える

in東京



講師 土山 希美枝 【龍谷大学教授】

政治学博士。龍谷大学法学部助教授・同准教授を経て2015年4月より龍谷大学政策学部教授。著書に「市民と自治体の協働研修ハンドブック」(公人の友社)、「地域公共政策をになう人材育成」(日本評論社)、「対話と議論でつなぎ・ひきだす」ファシリテート能力ハンドブック」(公人の友社)等多数。

7/29 (月) 10:00~13:00

「対話と議論」の 議会改革

1. 議会に「対話と議論」はあるか
2. 心が折れる議会報告会
3. もりあがらない議員間討議
4. 「話し合い」をデザインする
5. 可視化と共有のツールをつかう
6. 議会の「ファシリテーション」
7. 議会の「対話と議論」の強みをいかす

7/29 (月) 14:00~17:00

議員の定数と 報酬を考える

1. 議会というシクミから定数を考える
2. 議員報酬を考える視角を整理する
3. 「議員」と「議会」をどう設定するか?
4. 「定数と報酬」と「理解と納得」を考える
5. 議会と議員の価値はあげられるか